

# 進化する 職場

新型コロナウイルス禍による行動制限が緩和され、対面の研修や社員旅行を復活させた企業は少なくないだろう。プロパンガスや関連機器販売のつばめガス（岡山市南区福田）はその二つを組み合わせ、社員のスキルアップと一体感の醸成に役立てている。

日帰りや宿泊を伴う研修旅行で、取引先のガス機器メーカーや同業他社の協力を得て実施する。協力会社を訪ね、最新機器の説明を受けて商品知識を身に付けたり、エアコンの配管工事の実技に取り組んだりと内容は多岐にわたる。

対象は岡山本社と倉敷支社、福山支店に勤務する従業員全約120人。1回当

## 研修旅行



コロナの5類移行を機に始めた研修旅行。勤務地や部署の異なる従業員が取引先などを訪ねて共に学び、一体感を高めている＝広島市内

# 寝食共にし 一体感醸成

たり10〜20人程度が参加し、メンバーは勤務地や部署がばらばらになるよう事前に割り振る。社内の風通しを良くするための仕掛けだ。2023年6月にスタートし初年度は9回、24年度は13回を予定する。19年入社の中井章太さんは「電話でのやりとりしかなかった別の職場の社員と、顔が見える関係が築けた。接点ができたことで、仕事での連携も取りやすくな

なった」と話す。

全国的には社員旅行自体は減少傾向にある。人事労務分野のシンクタンク・産労総合研究所（東京）が余暇・レク行事を行う企業を対象に調査したところ、社員旅行の実施率は1994年の88・6%から2014年は46・0%まで下がった。そうした中でも同社は1950年の創業当時から社員旅行を継続。当初は近場の温泉などで、会社の成長とともに大がかりになり、近年ではオーストラリアやシンガポールなど海外にも足を延ばしていたという。

泊先で夜、参加自由の2次会を設定したところ、全員が参加。比較的若い従業員が多く、上司と飲食を共にしたことで会食マナーを学べたといった受け止めもあったという。日帰りでも、プチ贅沢な食事を楽しむようにしている。

23年度の社内アンケートでも9割以上が研修旅行に「もう一度行きたい」と答えた。社内で意見交換が活発化し、業務の効率化や業績アップといった効果も表れているという。

赤木忠専務は「非日常の空間だと趣味や悩みも聞きやすい。実は仕切りがうまくないなど意外な一面も見える」と意義を強調。「他社の良いところから刺激を得て仕事への意欲も高まっている。寝食を共にすることで一体感も強まった」と手応えを感じている。

（岡村綾乃）

社員の評判も上々だ。宿

＝随時掲載